

新型コロナウイルスを知りましょう

新型コロナウイルスが発生して以来、2年の月日を経ようとしています。この間、種々の変異株が出現し、最近ではオミクロン株が世界中を席卷しています。これに対し函館市はワクチンのブースター接種を始めましたが、希望している人全員に届くまではまだまだ時間が必要なようです。

当院はこれまでに370名に及ぶ陽性患者さんの治療を進めてまいりました。その間、色々な治療薬が使えるようになり、また呼吸管理の方法にも習熟してきており明らかに治療成績の向上を得ております。

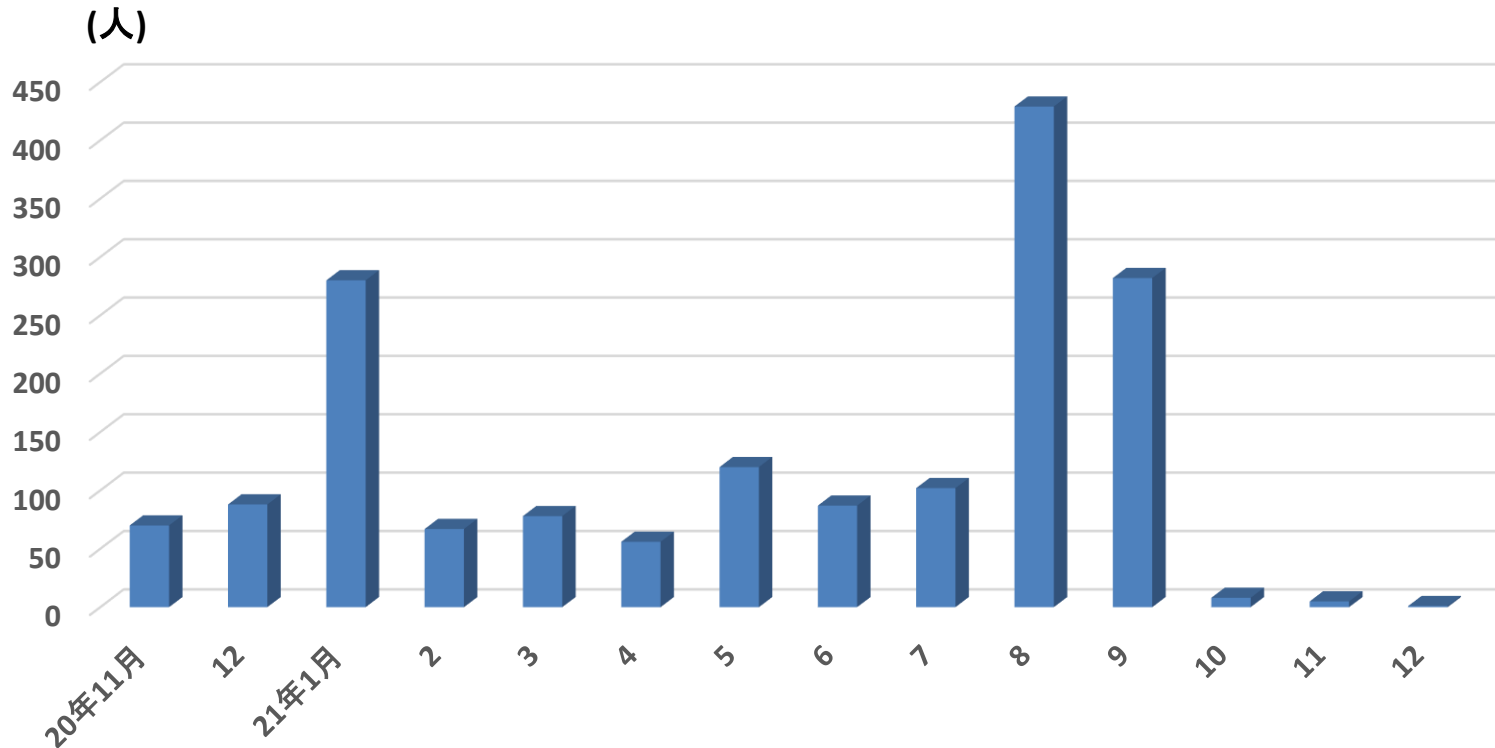
しかしそれでも皆様の感染対策の重要性が下がることは全くありません。そのためにはこのウイルスを良く知り、十分に対策をたてることが肝心です。これまでも新型コロナウイルスの情報については当ホームページに掲載してきましたが、日々、情報が更新するため一部内容を手直ししました。

これからもみなさまと共に新型コロナウイルス感染症と闘っていかねばなりません。この内容が参考になれば幸いです。

令和4年1月12日

市立函館病院 院長 森下清文

函館市新型コロナウイルス感染者数



函館市は昨年1月と8月・9月の二回、大きな山を経験しました。
日本の第3波と第5波に一致します。

当院入院のコロナウイルス陽性者

重症度

	2020/2/~21/12
重症(ECMO or 人工呼吸器等)	40(11%)
中等症	124 (34%)
軽症/無症状	203 (55%)
死亡者数	19(5%)

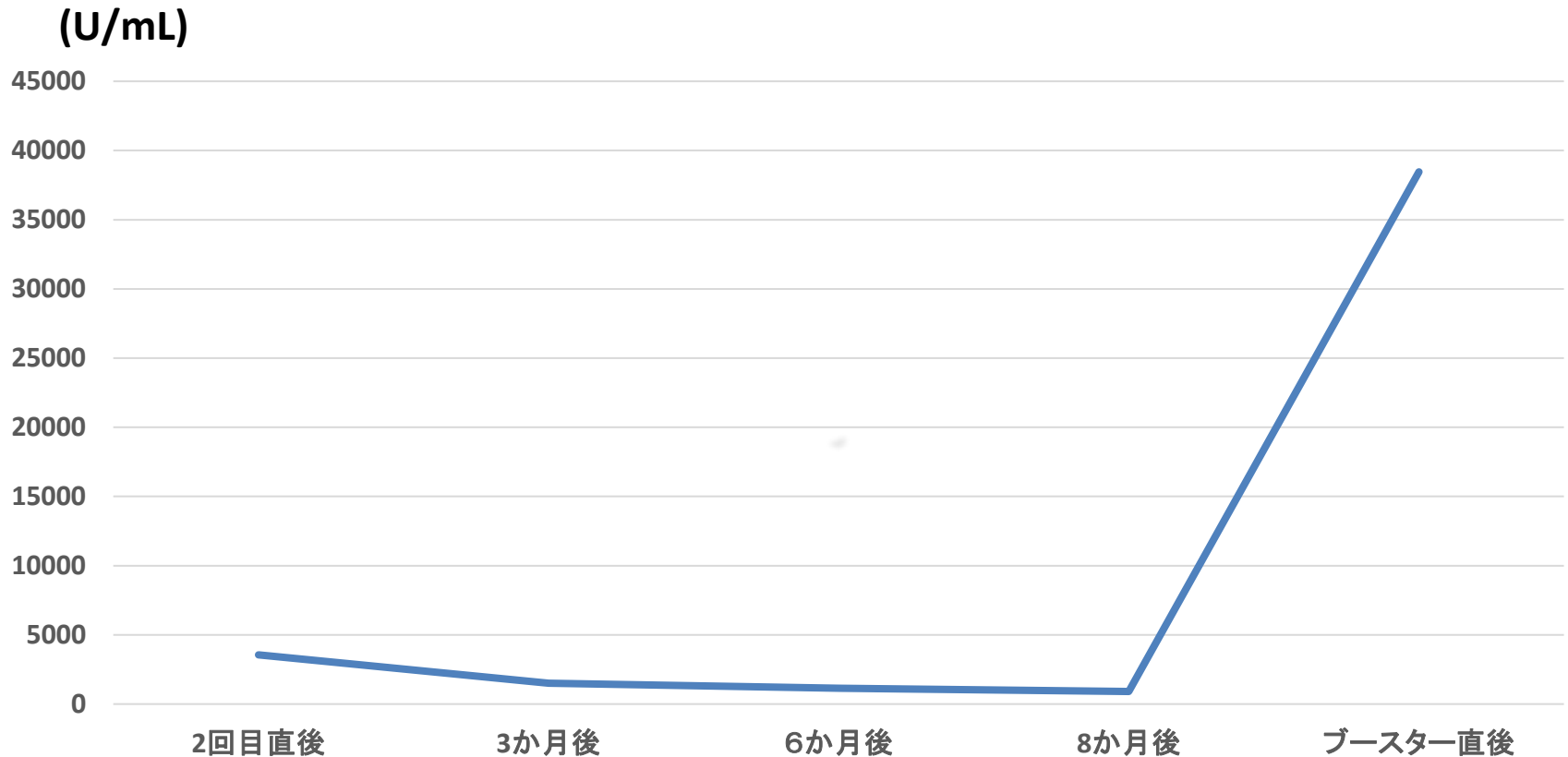
367人の入院患者を前半・後半に分けると前半の死亡率9%(17/183)は後半に1%(2/184)と著明な改善を認めています。この改善は統計学的にも意味のあるものです。

入院時データ

	2020/2~21/12
性別(男/女)	208/159
平均年齢(歳)	51(0~100)
居住地	
函館市	265 (72%)
北斗市	30(8%)
その他	72 (20%)

入院者のうち3/4は函館市です。ただし昨年11月以降は道南でも多数の陽性者がでました。そのうち重症者・中等症は当院で入院治療を行ないました。

ワクチン接種後の抗体価



ワクチンの2回目接種後の抗体価は3566 (U/ml)まで上昇しましたが、8か月後には918まで低下しました。3回目の接種、いわゆるブースター接種をするとその2週間後の抗体価は38455(U/ml)まで上がりました。ただしこれはあくまでも私個人のdataです。

ワクチン接種後の副反応

		当日	翌日
注射部位の痛み	接種2回目	84%	89%
	3回目	72%	88%
全身倦怠感	接種2回目	15%	65%
	3回目	19%	65%
頭痛	接種2回目	19%	59%
	3回目	15%	48%
発熱(37.5度以上)	接種2回目	9%	70%
	3回目	8%	54%

上の表は当院の職員に行なったPfizer社製ワクチンの調査結果です。
2回目と3回目(ブースター接種)で副反応の頻度は変わらないようです。

新しい治療薬

ラゲブ
リオ

飲み薬

入院・死亡リ
スク30%減

ゼビュ
ディ

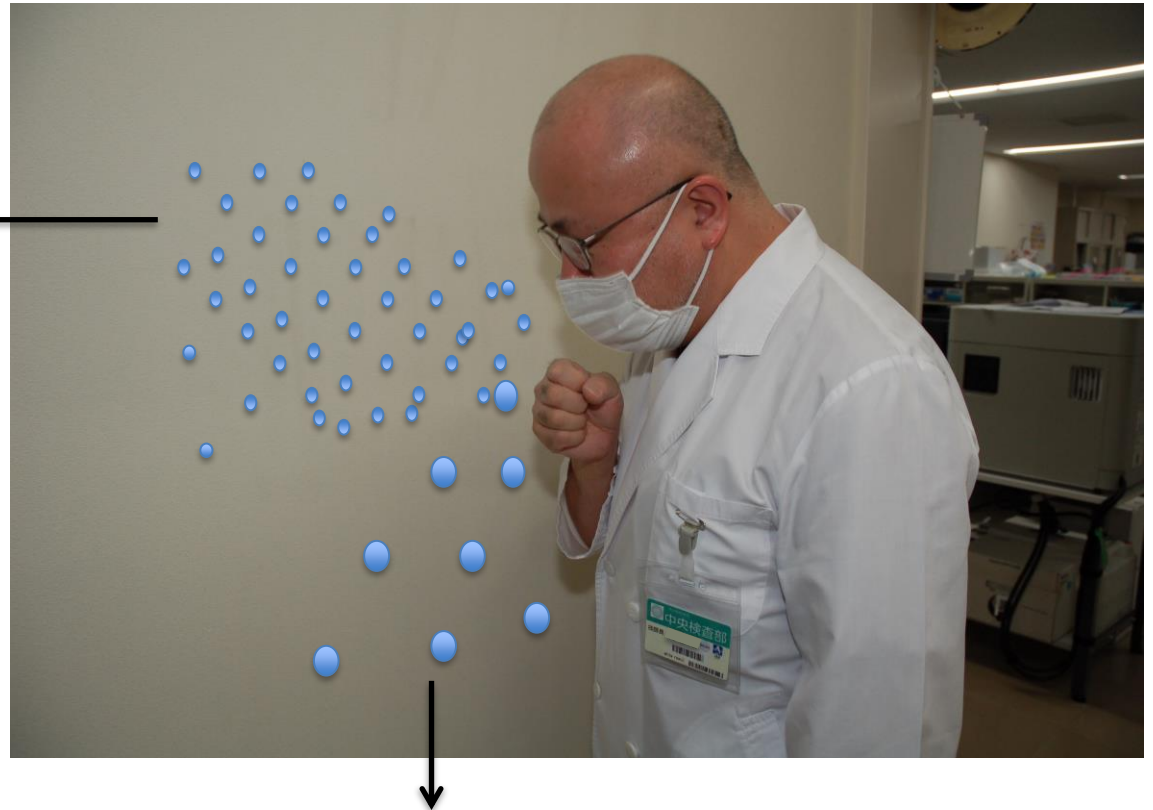
中和抗体薬
点滴

入院・死亡リ
スク79%減

いずれの薬も重症化リスクの高い患者さんに使います。
ただし症状発症後、早期に使わないと効果が出ません。
もちろん函館市でも使用できます。

感染経路

粘性のない飛沫は2m先あるいは落下するまでに水分が蒸発し乾燥することにより感染性を失います。2mの距離を空けると安全性が高くなります。



痰のからんだ大きな飛沫は落下します。外側が乾燥しても内部のウイルスは湿ったままで感染性を保つため、手などを介した感染の原因となります。便の内部も同様に乾燥しないため感染性を保ちます。排便のあとは必ず手洗いをしましょう。

三密(密閉、密集、密接)はなぜ危ない



これは2018年9月6日に全道停電が起きた際の当院対策本部の写真です。典型的な三密空間。このような状況で咳、くしゃみ、または大声で喋ると飛沫のなかの細かい粒子は落下せず空中に浮遊します。この飛沫にウイルスを含むと湿度が高いため乾燥せずに感染性が30分程続きます。しかも距離が近いいため容易に粒子は吸い込まれ、小さいが故に肺の奥まで達します。

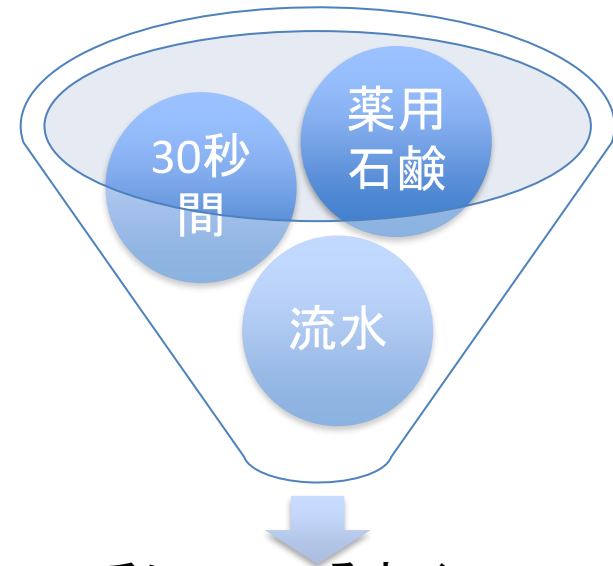
マスクの着用・手指消毒

マスクの着用



鼻をかくすよう正しくマスクを着けてください。これにより感染させにくくなります。排出するウイルス量が1/10にまで減るからです。

手指消毒



手についてるウイルスは99.99%消失します。

アルコール消毒も同じ効果を持ちます。

発熱患者対策



外来患者(救急患者を含む)で発熱がある場合、待機室(写真左側)で診療の順番を待っていただきます。待機室は陰圧構造となっているためウイルスは外部にもれません。また検体採取や問診はボックス構造の部屋(写真右側)で行うため安全に行うことができます。

感染対策



感染予防の基本対策の一つはソーシャルディスタンスを取ることです。当院はこの目的のため外来の待合の椅子にシートプリントを貼って離れて座っていただくように工夫いたしました。またこれまでの外来化学療法室は狭い構造で十分な距離が取れないことからリニューアルして十分な距離とカーテンで間仕切りができるように変えました(写真右側)。

PCR検査法



当院は新型コロナウイルスに特異的な遺伝子配列を増幅してこれを検出するPCR検査法を用いています。向かって左側の機械は検出までの時間が15分と短いことから急いで結果を知りたい場合に使っています。一方、右側の機械は1時間近くかかりますが、ウイルス量の推定ができるため感染性や病気の回復程度の判定ができます。機械の特性を利用して使い分けしています。

ECMO(エクモ)



重症例になると生命を維持するために必要なガス交換ができなくなります。その代わりを行なうのがECMOです。写真の一番左側の装置です。身体から血液を抜いてガス交換を行い、身体に戻す。その間に肺を休め、肺炎を直す。これが治療の基本原理です。最新の報告(2022/1/11)によるとこれまでに1199名の患者さんがECMO治療を受け、757人(63%)が離脱。435人(36%)が死亡。そして治療中の患者さんが7名(1%)です。当院も1例の患者さんにECMOを使い、離脱に成功しました。